

第一期の終わりと 第二期の始まり

応用生物科学部 学部長 金丸 義敬



各務同窓会報



岐阜大学

新しい会報がお手元に届く頃は、原稿を記している現在のこれまで経験したことのない異常に続く暑さも終わり、深まる秋のさわやかな季節の中で、会員の皆様方にはますますご健勝のことと拝察いたします。

再任が決定していた小見山章先生には理事兼副学長として岐阜大学役員の重責を担われることとなり、非力にもかかわらずこの四月から学部長をお引き受けすることとなりました。福井博一総務・財務担当（評議員）、鈴木文昭教育研究担当、杉山誠企画・広報担当の副学部長に事務長及び事務長補佐を加えた五名の学部運営会議メンバーの皆様を支えていただきながら何とか責務を全うする所存です。どうぞよろしくお願いたします。

国立大学法人としての船出から第一期六年間が経過し、本年四月からは第二期が新たにスタートいたしました。第一期は同時に「農学」から「応用生物科学」へと学部の看板を掛け替えてからの六年間でもありました。

国立大学法人評価委員会が本年三月にまとめた第一期の岐阜大学の全体評価は、「おおむね良好」であり、応用生物科学部に関連した記述として、教育に関する目標の特色ある点に獣医学教育の充実が、また、研究に関する目標のすぐれた点には野生動物救護センター設置による地域との連携がとりあげられております。また、

昨年の本会報でも触れられた大学評価／学位授与機構による外部評価の結果では、教育の実施体制や方法、そして、学業の成果といった教育に関する項目において、期待される水準を上回る、との判断が示され、応用生物科学部の三課程、六コースの教育が高い評価を受けました。研究に関する現況分析でも、研究活動及び研究成果の状況がいずれも、期待される水準を上回る、とされ、研究の質の向上度においても、高い質を維持している、として非常に高い評価を受けております。

従来の農学の学理を教育研究の理念の一部として受け継ぎながらも、生物科学に関連する全ての産業を「生物産業」として位置づけ、その生物産業分野に対して有能な人材を送り出すことで二十一世紀の社会の要請にこたえることを目指して出発した応用生物科学部ですが、第一期六年間でその基盤が確立された結果上記のような評価を受けるに至ったと確信しております。第二期では、応用生物科学のさらなる発展を期して、学部 丸となり不断の努力を続けていこうと考えております。

その第二期においては、「相応に改善が図られている」とされた教育の質の向上についてなお一層の努力を図るべく、新たに教育改善室を設けて客観的な観点からの取り組みをスタートさせようとしております。岐阜大学応用生物科

学部が社会に果たす役割の中で、充実した教育を行うことは最重要課題であり、中央教育審議会答申の中で学士力の保証があげられているように、教育内容の充実と実質化は現在・将来共に学部課せられた大きな責務であります。昨年度後半には、大学法人評価委員会や大学評価／学位授与機構とは別に、第一期の教育に関して同窓会長及び後援会長を含む六名の外部委員による学部独自の外部評価を実施いたしました。そこでは、教育方針、アドミッション・ポリシー、カリキュラム・ポリシー、ディプロマ・ポリシー、教育力向上に対する取り組み、入学志願倍率、新たな地域教育への取り組みなど、多方面にわたる教育関係の評価をいただきました。結果はこの五月に冊子として刊行したところでありましたが、もちろんさまざまな改善の余地を残すものの、いずれの項目でも相応の目標を達成しているとの判断をいただいております。ご多忙中にも関わらず快く外部評価委員をお引き受けいただきました皆様方に心より御礼を申し上げます。

昨夏から今夏までを振り返ってみますと、目に見えない病原体に翻弄され続けた一年間でありました。教職員はかりでなく学生達も含めて、罹患を避けることだけではなく、感染の広がりを防ぐために、日々真剣な対応に追われるという初めての経験を余儀なくされました。新型インフルエンザの流行では、幸いにも特段の措置を講ずることなく、最も心配された入試関連行事を無事に済ませることが出来ました。一方、四月末から大きな社会問題を引き起こした口蹄疫の発生では、産業動物を飼育する農場を抱える部局として、二ヶ月以上にわたる非常に緊張したかたちの対応に明け暮れました。文科省からの緊急要請を受け、七月初めには獣医学課程の浅野玄准教授に宮崎県での大変過酷な防疫作業に携わっていただきました。また、八月初めのオープンキャンパスや高校生を対象とする公

開講座では、農場見学を取りやめたり、多数の受講希望のあった二つの講座の開講を見合わせたりしております。どちらの流行もすでに終息宣言が出され、一応落ち着いた状態に戻っておりますが、目に見えない微生物によって学部活動の全ての面が多大な影響を被ることをまざまざと実感させられました。この経験を無駄にすることなく、今後の学部運営に生かしていこうと考えております。

本年四月には新たに学部二一〇名、大学院一〇三名の新生を迎え入れることが出来ました。組織面では、人と動物のがんの克服を通じて広く社会に貢献することを目指して「比較がんセンター」を新たに発足させました。動物病院では新しい診療棟が完成し、名実ともに地域の動物診療の中核としてますます重要な任務を担おうとしております。昨年名称変更した野生動物管理学研究センター（旧野生動物救護センター）とともに、いずれも応用生物科学部の教育・研究のさらなる充実につながるものと期待しております。また、これまで三年度としていた獣医学課程の編入学制度を今年度から二年度に移行させて学生を受け入れることとしておりますし、食品生命科学課程では平成二十三年度の入試から「応用生命科学課程」と名称変更した上で入学生の募集を行うことを決定しており、いずれも教育の質の向上につながるものと期待しております。

予算や人員の削減といった国の根本施策が今後の学部運営に甚大な影響を与えることが避けられない状況下、第二期における応用生物科学部の大変難しい舵取りを誤りなくとるためには、同窓会の皆様からの建設的なご意見が是非とも必要と考えております。これまでに皆様からいただきました多額のご寄付に対して心から厚く御礼申し上げますとともに、今後とも変わらぬご支援をいただきますようお願い申し上げます。



会長挨拶

後藤 悦男

同窓会の皆様には益々ご清栄の段、お喜び申し上げます。平素は同窓会への格別のご協力を賜り誠にありがとうございます。また母校の先生方のご指導お世話に厚く御礼申し上げます。

今春、学部卒業生二〇一名、大学院修了生九十五名が卒業され、皆様方を本会員に迎えました。全国各支部におかれましては、新会員受け入れにご高配賜りますようお願い申し上げます。

母校応用生物科学部は、金丸学部

長様はじめ全先生方が母校農学心のDNAを大切にされ、研究教育を通して、有為な人材育成に、地域社会・産業・国・国際社会に役立ち貢献されていることに、敬意を表し感謝申し上げます。

各務同窓会報で、前年度から始まりました応用生物科学部への寄付金拠出のお願いに、早速、多数の方々から多額のご寄付をご協力頂いておりますこと、只々感謝・感激でいっぱいでございます。本事業は、応用生物科学部の充実発展のために継続

して参りますので、引き続き、ご支援賜りますようお願い申し上げます。次第でございます。

昨年十月三十・三十一日、岐阜大学フェア二〇〇九が開催され、学生・同窓会員・市民の大勢の参加がありました。パネル展示では応用生物科学部が四六テーマを発表され、福井博一先生の研究指導の「青いバラ」が特別展示されて、多くの方々の注目を集めていました。また各務同窓会員で、猿橋賞を受賞された塩見美喜子先生の特別講演があり、受講者一同、感動しました。

十二月二日、二〇〇九年度岐阜大学応用生物科学部シンポジウムが開催されました。テーマは「食の安全・安定供給と応用生物科学」。その中

幹事長（MA12）福井 博一

幹事長ご挨拶

宮崎県で発生した口蹄疫は日本の畜産業界に大きな影響を及ぼし、風評被害も含めて様々な社会問題を引き起こしました。幸いにも八月には収束をむかえましたが、宮崎県在住の各務同窓会会員はもとより、関連するお仕事をされておられる皆様方には大変なご苦労をされたものと拝察いたしますと共に、皆様のご尽力に感謝申し上げます。

各務同窓会会員の皆様方におかれましては、お元気でご活躍のこととお慶び申し上げます。平成二十二年八月一日現在、各務同窓会は会員数一六、五六四名、支部数七十に達し

ています。本年の行事としては、代表委員会の開催、同窓会報の発行、卒業式での学部三名と修士課程二名に対する同窓会長賞の授与を行いました。

代表委員会は六月十二日（土）に岐阜市長良川河畔のホテルパークで開催し、全国から三十九支部のご出席をいただきました。詳細については3頁の「平成二十二年各務同窓会代表委員会報告」をご覧ください。本年度の同窓会報は約一三、〇〇〇部を発行いたしました。平成十九年度から始めた同窓会長賞表彰は、卒業・修了する成績優秀者五名に対し

て顕彰が行われました。11頁に表彰を受けた卒業・修了生の抱負が掲載されております。

平成二十年から始めた応用生物科学部寄付金制度は本年も継続してお願いいたしております。十月三十一日付けで二三五件、一、六一七、〇〇〇円の浄財を賜りました。寄附をいただきました皆様の氏名を別表に掲載させていただきます。深く御礼申し上げます。岐阜大学では応用生物科学部寄附金とは別に岐阜大学基金を募っておりますが、応用生物科学部寄附金へのさらなるご協力をお願い申し上げます。皆様方よりご寄付いただきました浄財は教育支援活動に使用させていただきますので、後日使用内訳としてご報告させていただきます。

で、私は「養鶏業の現状と応用生物科学への期待」食の安全・安定供給を目指す日本型養鶏」と題して講演させて頂きました。学生の皆様は真剣に熱心に受講されて、深く感謝・感銘しました。本シンポジウムに、これからも各務同窓会の先輩の皆様が講演の機会が与えられますようにお願い申し上げます。

三月二十五日、岐阜大学卒業式応用生物科学部祝賀会で、学業優秀の五名の方々に、同窓会長賞を贈呈しました。

四月二十二日、岐阜大学国際交流会館C棟開所記念式典を併せて、柳戸会館（昭和六十一年、各務同窓会を含む四学部同窓会の寄付で建設の同窓会館）の改修見学会が行われま

ただきます。

岐阜大学は法人化後6年ごとに中期目標計画を策定して改善に努めてきております。本年は第二期中期目標計画の初年度にあたり、「同窓会との関係性を強化する」ことが中期計画に掲げられております。これまでに以上に応用生物科学部と各務同窓会との連携を深めるために、各支部への電子メールを活用した学部情報への配信や支部総会への教員の出席など積極的に取り組んでいきたいと思

います。会報末尾の電子メールアドレスを活用いただき、支部情報やご要望などを寄せいただければありがたいと思います。

した。今後、岐阜大学同窓会連合会の諸活動に有効活用されることを期待しています。

六月一日、岐阜大学創立六十一周年記念式典が開催され、同日、第一回岐阜大学同窓会連合会総会があり、私は会長を、福井博一先生は幹事を拝命致しました。本年度の主活動は、各学部同窓会の組織を通して、「岐大のいぶき」No.一八を全会員にお送りし、岐阜大学同窓会連合会の設置及び事業活動についてご理解とご協力を頂くことにあります。皆様のご指導ご支援を何卒よろしくお願い申し上げます。

皆様のご健康と母校・各務同窓会の益々の発展を祈念申し上げます。 合掌

は社会でこう生きてきた―岐阜大学の先輩たちの見る日本社会―が開講されました。各務同窓会からも四名の会員に岐阜大学非常勤講師として講義をお願いしております。本年は後藤会長の他、愛知県各務会、中濃支部、岐阜県職各務同窓会から講師の推薦をいただきました。本講義については来年以降も継続して開講されますので、講師の推薦をお願いいたしました支部におかれましては講師の推薦をよろしく願っています。また、この講義とは別に応用生物科学部学生を対象とした講義も計画いたしておりますので、その節にはよろしく願っています。

最後に各務同窓会会員の皆様のご健勝とご活躍を祈念いたします。

各務同窓会報

平成二十二年
各務同窓会代表委員会報告

平成二十二年各務同窓会代表委員会は六月十二日(土)正午から長良川河畔のホテルパークで開催されました。当日は、「第三十回全国豊かな海作り大会ぎふ長良川大会」と重なり、天皇陛下がこの大会に参加、岐阜市に宿泊されました。岐阜の町の中の道路には至るところに警察官が立って物々しい雰囲気でしたが、天気にも恵まれ初夏の陽気の中、多くの方の参加を頂き開催されました。

北海道から高知県まで三十九支部の四十一名の代表委員の方々に加えて、役員および幹事など二十一名を合わせて六十二名参加いただきました。

代表委員会は後藤悦男会長の挨拶で始まり、平成二十二年の幹事長、幹事ならびに監事の紹介の後、福井博一幹事長から就任の挨拶がありました。続いて、議長に岐阜県職各務同窓会支部の村山巖氏(E大23)が選出され、議案を検討しました。

第一議案は平成二十一年度事業・決算報告及び会計監査報告で、阿閉泰郎前幹事長から資料に基づき事業報告がありました。決算報告は柳瀬笑子前会計監事が行い、会計監査報告は鈴木文昭監事から会計が適切に執行されているとの報告を受けました。審議では応用生物科学部寄附金について用途を公表頂きたいとの意見があり、名誉会長の金丸義敬応用生物科学部部長から今後公表するよう検討するとの返答がありました。また、寄附金の事務手続きより寄附し易いよう改善してほしいとの要望があり、福井幹事長より改善するよう進めるとの返答がありました。これらの審議を踏まえた上、本議案は原案通り承認されました(4頁参照)。

第二議案は役員選任についてです。福井幹事長より会長は岐阜大学同窓会連合会の会長を更に一年間務められることから、引き続

きお願いすること、副会長のうち林 金吾氏(V大15)、荒井曉夫氏(E大8)、鶴見昇三氏(P大1)の三名が退任され、北川精一氏(V大11)、板津敏彦氏(E大12)、太田耕造氏(P大4)に新しい副会長としてお願いするとの報告があり、審議の結果、原案通り承認されました(3頁参照)。

第三議案は平成二十一年度事業計画についてです。伊藤直人幹事から説明があり、代表委員会の開催時期についての質問がありました。例年六月の第一土曜日となっていたがこの二年間変則となっているので、決めて頂きたいとの意見がありました。福井幹事長よりこの二年間は特別な措置ですので六月第一土曜日の基本は守りますとの返答がありました。この審議を踏まえた上で、計画案が承認されました。同窓会報は十一月発行予定です。

第四議案は平成二十二年予算についてです。安藤弘宗幹事から昨年度決算に沿って予算案を作成したとの説明があり、承認されました(4頁参照)。

その他について福井幹事長より以下の五つの提案等がありました。(一)不明支部について、栃木支部および愛知各務獣医同窓会の二支部は会報に連絡依頼をしても連絡がないことから廃止したいこと、長野南信支部はまとめ役の家族から削除の依頼があったことから廃止したいとの提案がありました。愛知各務獣医同窓会については獣医のつながりで再度連絡を取ってもらいたいとの意見があり、検討することになりました。長野南信支部については長野北信支部から合併を含めて検討したいとの意見があり、検討を依頼しました。栃木支部については廃止すること承認されました。(二)岐阜大学同窓会連合会総会について、連合会と各同窓会の関係が気になるところですが、各同窓会はそれぞれこれまで同様独自に活動をし、連合会としては「岐大のいぶき」のような冊子を作成して、大学全体の情報を発信するよう活動をするとの報告がありました。(三)

これからの幹事長・幹事の選出方法について、大学の次期中期計画では同窓会との密接な関係を持ちながら進めることがあげられていることもあり、現在、岐阜大学支部に所属する同窓生から選出されていましたが、賛助会員となっている教員も含めて、学部全教員を対象として選出していく方向で検討しているとの報告がありました。(四)同窓会報の原稿について、支部の活動を載せて頂けると一層充実した会報になるのでは是非お願いしたいとの依頼がありました。(五)事務局の体制について、事務担当が四月より山田千加子さんに変更になったこと、同窓会窓口を明確にするため専用の電話番号とLINEアドレスを作ったことが紹介されました。今後同窓会にご質問・連絡等ありましたら050-2933411(5:30以降は留守番電話になります) Email: obabs@ifu.ac.jp へお気軽にお願いいたします。

議事後、後藤会長より今回副会長を退任される林金吾氏、荒井曉夫氏、鶴見昇三氏に對して記念品が贈呈されました。

最後に、名誉会長の金丸義敬応用生物科学部学部長より挨拶がありました。最初に、学部に対し多くの寄附金を頂き大変感謝しているとお礼がありました。また、獣医学課程の三年次編入が二年次編入に変更になること、平成二十三年度から食品生命課程が応用生命科学課程へ変更になること、第一期中期計画では高い評価を受けたことを踏まえて、第二期中期計画に基づき適進することなど、どの学部の現況についての説明がありました。



平成21年度支部総会開催状況

支 部 名	期日	出席者氏名
愛 知 県 各 務 会	21.05.16	清水 英良
愛知県高等学校教員	21.06.20	吉崎 範夫
各務同窓会高校部会	21.06.27	北川 均、石田 秀治
岐 阜	21.07.05	小見山 章
石 川 県	21.07.11	天谷 孝夫
長 野 北 信	21.07.11	丸尾 幸嗣
愛知県職林務関係同窓会	21.07.17	木村 正信
愛知県職農業関係同窓会	21.07.24	川島 光夫
静 岡	21.09.05	河合 啓一
岡 山 県	21.10.17	大橋 英雄
V 科 三 重 県	21.11.03	柳井 徳磨
江 南	21.11.06	木村 正信
中 濃	21.11.14	松本 康夫
兵 庫 県	21.11.15	吉崎 範夫
岐 阜 市 役 所	22.02.19	千家 正照
岐 阜 県 職	22.02.20	会長、土井 守、海野 年弘、柳瀬 笑子
岐 阜 大 学	22.03.05	会長、副会長
東 海 農 政 水 機 構	22.03.08	天谷 孝夫

平成22年度岐阜大学各務同窓会役員

名誉会長	金 丸 義 敬	
会 長	後 藤 悦 男	(V大 2)
副 会 長	矢 井 治 夫	(A大 7)
	清 水 正 巳	(F大10)
	水 野 隼 人	(C大15)
	北 川 精 一	(V大18)
	板 津 敏 彦	(E大12)
	小 森 利八郎	(N大10)
	太 田 耕 造	(P大 4)
相 談 役	杉 山 幹 夫	(M 1)
	岩 井 威 道	(V大 1)
	新 藤 秀 逸	(SP 21)
	中 村 孝 雄	(N大 7)

平成22年度幹事長・幹事及び監事

幹事長	福 井 博 一	(MA12)
幹 事	(庶務・幹事長代理) 景 山 幸 二	(A大26)
	(事 業) 伊 藤 直 人	(V大43)
	(会 計) 安 藤 弘 宗	(R大 3)
監 事	阿 閉 泰 郎	(V大25)
	柳 瀬 笑 子	(R大 5)

平成21年度各務同窓会決算報告

自 平成21年4月1日 至 平成22年3月31日

1.一般会計 2.基本金特別会計 3.資産現在高 4.資産保管状況

1. 一般会計

(1) 歳入の部			
(単位：円、小文字は内訳)			
勘定項目	今年度予算	決算額	比較増△減額
1.会費	2,380,000	1,835,500	△ 544,500
入会金	2,240,000	1,740,000	△ 500,000
年会費	140,000	95,500	△ 44,500
2.利子	3,683	625	△ 3,058
3.雑収入	540,000	497,172	△ 42,828
4.基本金特別会計より繰り入れ	3,100,000	3,100,000	0
当期歳入合計 (A)	6,023,683	5,433,297	△ 590,386
前年度繰越収支差額	209,317	209,317	0
歳入合計 (B)	6,233,000	5,642,614	△ 590,386

(2) 歳出の部			
勘定項目	今年度予算	決算額	比較増△減額
1.事務費	2,186,000	1,962,304	△ 223,696
消耗品費	10,000	3,310	△ 6,690
人件費	1,800,000	1,735,559	△ 64,441
通信費	30,000	24,810	△ 5,190
旅費	36,000	36,000	0
終身会費返金	300,000	160,000	△ 140,000
雑費	10,000	2,625	△ 7,375
2.会議費	1,260,000	893,215	△ 366,785
代表委員会費	250,000	127,115	△ 122,885
代表委員会旅費	1,000,000	723,400	△ 276,600
役員会費	10,000	42,700	32,700
3.事業費	2,110,000	1,971,492	△ 138,508
会報等印刷費	600,000	500,000	△ 100,000
会報郵送費	900,000	824,960	△ 75,040
雑費	550,000	599,789	49,789
ホームページ管理費	10,000	10,000	0
同窓会長賞費	50,000	36,743	△ 13,257
4.名簿関係費	10,000	9,000	△ 1,000
発送費	10,000	9,000	△ 1,000
5.慶弔費	50,000	43,092	△ 6,908
6.支部総会派遣費	400,000	325,600	△ 74,400
7.卒業・修了祝賀会賛助費	150,000	150,000	0
8.予備費	50,000	60,399	10,399
当期歳出合計 (C)	6,216,000	5,415,102	△ 800,898
当期収支差額 (A)－(C)	△ 192,317	18,195	210,512
次期繰越収支差額 (B)－(C)	17,000	227,512	210,512

2. 基本金特別会計

(1) 歳入の部			
(単位：円、小文字は内訳)			
勘定項目	今年度予算	決算額	比較増△減額
1.終身会費	4,500,000	3,480,000	△ 1,020,000
新入生分	4,480,000	3,460,000	△ 1,020,000
卒業生分	20,000	20,000	0
2.雑収入	0	0	0
3.利子	230,023	152,921	△ 77,102
当期歳入合計 (A)	4,730,023	3,632,921	△ 1,097,102
前年度繰越収支差額	70,953,977	70,953,977	0
歳入合計 (B)	75,684,000	74,586,898	△ 1,097,102

(2) 歳出の部			
勘定項目	今年度予算	決算額	比較増△減額
1.一般会計へ繰入	3,100,000	3,100,000	0
2.振込料	5,000	0	△ 5,000
当期歳出合計 (C)	3,105,000	3,100,000	△ 5,000
当期収支差額 (A)－(C)	1,625,023	532,921	△ 1,092,102
次期繰越収支差額 (B)－(C)	72,579,000	71,486,898	△ 1,092,102

3. 資産現在高

(単位：円)		
項目	年度始現在高	現在高
1.一般会計	209,317	227,512
2.基本金特別会計	70,953,977	71,486,898
合計	71,163,294	71,714,410

4. 資産保管状況

(単位：円)		
項目	一般会計	基本金会計
1.現金	7,881	
2.普通預金		
大垣共立銀行	691	
十六銀行	180,213	2,276,769

中央三井信託銀行		2,348,298
三菱UFJ信託銀行		2,196,640
郵便局	38,727	
みずほ銀行		5,471,497

3.定期定額貯金		
大垣共立銀行		9,590,489
十六銀行		21,798,610
三菱UFJ信託銀行		6,000,000
中央三井信託銀行		21,000,000
4.振替貯金	0	0
5.金銭信託		
三菱UFJ信託銀行		804,595
合計	227,512	71,486,898
総計	71,714,410	

平成22年度各務同窓会予算

収支予算書（平成22年4月1日～平成23年3月31日まで）

1. 一般会計

(1) 歳入の部			
(単位：円、小文字は内訳)			
勘定項目	予算額	前年度予算額	差異
1.会費	2,440,000	2,380,000	60,000
入会金	2,300,000	2,240,000	60,000
年会費	140,000	140,000	0
2.利子	1,488	3,683	△ 2,195
3.雑収入	540,000	540,000	0
4.基本金特別会計より繰り入れ	3,000,000	3,100,000	△ 100,000
当期歳入合計 (A)	5,981,488	6,023,683	△ 42,195
前年度繰越収支差額	227,512	209,317	18,195
歳入合計 (B)	6,209,000	6,233,000	△ 24,000

(2) 歳出の部			
勘定項目	予算額	前年度予算額	差異
1.事務費	2,181,000	2,186,000	△ 5,000
消耗品費	10,000	10,000	0
人件費	1,800,000	1,800,000	0
通信費	30,000	30,000	0
旅費	36,000	36,000	0
終身会費返金	300,000	300,000	0
雑費	5,000	10,000	△ 5,000
2.会議費	1,210,000	1,260,000	△ 50,000
代表委員会費	200,000	250,000	△ 50,000
代表委員会旅費	1,000,000	1,000,000	0
役員会費	10,000	10,000	0
3.事業費	2,050,000	2,110,000	△ 60,000
会報等印刷費	500,000	600,000	△ 100,000
会報郵送費	900,000	900,000	0
雑費	600,000	550,000	50,000
ホームページ管理費	10,000	10,000	0
同窓会長賞費	40,000	50,000	△ 10,000
4.名簿関係費	10,000	10,000	0
発送費	10,000	10,000	0
5.慶弔費	50,000	50,000	0
6.支部総会派遣費	400,000	400,000	0
7.卒業・修了祝賀会賛助費	150,000	150,000	0
8.予備費	70,000	50,000	20,000
当期歳出合計 (C)	6,121,000	6,216,000	△ 95,000
当期収支差額 (A)－(C)	△ 139,512	△ 192,317	52,805
次期繰越収支差額 (B)－(C)	88,000	17,000	71,000

2. 基本金特別会計

(1) 歳入の部			
(単位：円、小文字は内訳)			
勘定項目	予算額	前年度予算額	差異
1.終身会費	4,620,000	4,500,000	120,000
新入生分	4,600,000	4,480,000	120,000
卒業生分	20,000	20,000	0
2.雑収入	0	0	0
3.利子	160,102	230,023	△ 69,921
当期歳入合計 (A)	4,780,102	4,730,023	50,079
前年度繰越収支差額	71,486,898	70,953,977	532,921
歳入合計 (B)	76,267,000	75,684,000	583,000

(2) 歳出の部			
勘定項目	予算額	前年度予算額	差異
1.一般会計へ繰入	3,000,000	3,100,000	△ 100,000
2.振込料	5,000	5,000	0
当期歳出合計 (C)	3,005,000	3,105,000	△ 100,000
当期収支差額 (A)－(C)	1,775,102	1,625,023	150,079
次期繰越収支差額 (B)－(C)	73,262,000	72,579,000	683,000

学園だより

課程等の近況

◆食品生命科学課程

同窓生の皆様には、ご健勝にてご活躍のこととお慶び申し上げます。

食品生命科学課程の近況をご報告いたします。本年3月に本課程から第3回卒業生88名を送り出し、そのうちの50名（他大学大学院進学者4名を含む）が修士課程に進学しました。修士課程修了者は、資源生命科学専攻の第1期生44名と生物資源利用学専攻1名で、うち3名が博士課程に進学しました。就職に関しては、学部4年生と修士2年生の就職活動が早期から長期にわたるなど益々厳しくなってきたてきております。皆様の一層のご協力とご支援をお願い申し上げます。一方、本年4月には、本課程に91名（3年次編入生5名を含む）、また大学院資源生命科学専攻に56名の新生をそれぞれ迎え入れ、活発な教育・研究活動が行われています。

教員の動向では、大橋英雄教授が3月末に定年退職されました。先生の長年にわたるご貢献に感謝申し上げます。一方、金丸義敬教授は本年4月に学部長に就任されて大学および学部の管理運営の重責を担っておられ、鈴木文昭教授が副学部長（教育・研究担当）としてこれを補佐されておられます。また、高見澤一裕教授は連合農学研究科長として、長岡利教授は大学院委員長としてそれぞれ活躍されております。なお、分子生命科学コースの河合啓一教授（応用微生物学）と中塚進一教授（生物有機化学）は、本年度末をもって定年退職となります。両先生の長年にわたる教育研究へのご貢献に対して敬意を表したいと思っております。

◆生産環境科学課程

現在の課程名称は、平成23年4月から「応用生命科学課程」に変更され、分子生命科学コースと食品生命科学コースの2コースで教育を実施することになりました。これは、生物（バイオ）産業で活躍できる人材育成のために教育内容を見直したことに由来するもので、受験希望者の増加を期待しております。今後の本課程の発展に關して、ご支援とご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

（山内 亮）

生産環境科学課程の近況をご報告申し上げます。本年3月、本課程から81名が卒業し、うち34名（他大学大学院を含む）が修士課程へ進学しました。また、本研究科第1期の修了生として生物環境科学専攻から48名を送り出し、うち8名が博士課程へ進学いたしました。一方、本年4月、本課程に新入学生87名（3年次編入学生5名を含む）、また大学院生産環境科学専攻に47名を迎え、活発な教育研究がおこなわれています。

次に、教員の動向についてお知らせいたします。

応用植物科学コースは、12名の教員からなり、コース長は百町満朗教授です。本年4月に「植物遺伝育種学」分野の助教として山根京子氏が着任し、今後の活躍が大きいと期待されます。管理運営面では、福井博一教授が副学部長として総務を担当し、学部全体の管理運営に尽力されておられます。また、本年6月の開学記念日では、教

育研究面に多大な功績があった小山博之教授が表彰されました。研究面では、安部教授が昨年11月に第8回中国生物学術年会三等賞を受賞されました。なお、旧生物生産システム学科、そして生産環境科学課程と、長年にわたり教育・研究に貢献された今井健教授（食料生産管理学）と安部淳教授（国際農業学）は本年度末をもって定年退職予定です。とくに、今井先生は岐阜県農政審議会会長として県の農政の発展に貢献され、また、安部先生は東アジアからの多くの留学生の指導に尽力されました。

応用動物科学コースは、10名の教員からなり、コース長は吉崎範夫教授です。また、土井守教授が本学部の教学委員長として活躍されておられます。研究面では、3月に大谷滋教授の指導のもと村上晶紀（応用生物科学研究科学生）が日本家畜学会優秀発表賞を受賞されました。

環境生態科学コースは、17名の教員からなり、コース長は向井讓教授です。小見山章教授は理事・副学長として大学全体の学術研究・情報の重責を担っておられます。宮川修一教授は昨年度に引き続きフィールド科学教育研究センター長として付属施設の管理運営を担っておられます。研究面では、本年3月に川窪伸光准教授の指導のもと坂本亮太（応用生物科学研究科学生）が第57回日本生態学会ポスター賞・最優秀賞（開花時期で異なる結果率が明らかにするアゲハチョウ送粉効果）を、さらに土田浩

治教授の指導のもと佐賀達矢（応用生物科学研究科学生）が第57回日本生態学会ポスター賞・優秀賞（シダクロソズメバチのCHC成による果仲間認識）をそれぞれ受賞されました。また、本年4月に旧農薬工学科農地工学講座の五十崎恒名誉教授は瑞宝中綬章を受章されました。なお、天谷孝夫教授（農地環境工学）、芳村一講師（環境材料学）が本年度末をもって定年退職の

予定です。天谷教授は、旧生物生産システム学科、そして生産環境科学課程と長年にわたり教育研究に貢献され、とくに内蒙古大学と岐阜大学の大学間交流に尽力されました。芳村講師は、旧林学科、旧生物資源生産学科、そして生産環境科学課程と長年にわたり木材理学の教育研究に貢献されました。

（千家正照）

◆獣医学課程

獣医学課程の現況をお知らせします。3月実施の第61回獣医師国家試験では、32名中30名（93%）が合格しました。全員ではありませんが、ますますというところでは、卒業生の進路は、今年も傾向は変わらず、小動物臨床が34%、地方公務員が28%でした。求職は地方公務員を中心に順調です。優秀卒業生として、獣医師会会長賞・山川友佳さん、学部長表彰・田中苑子さん、同窓会長表彰・船橋めぐみさんが選ばれ、在学は池田あずさん（4年生）が学長表彰されました。

今年度末に薬理学教授の小森成一先生が定年退職の予定です。先生の長年の貢献に感謝します。4月に臨床繁殖学の高須正規助教が准教授に昇任し、8月に村瀬哲磨准教授が教授に昇任しました。10月には神志那弘明氏が臨床放射線学准教授として、柴田早苗さんが動物病院助教として着任しました。また、動物病院の任期付特任助教として伊藤祐典氏が4月に着任しました。

文部科学省の戦略的大学連携支援プログラム「獣医・動物医学系教育コンソーシアムによる社会の安全・安心に貢献する人材の育成」が今年度も継続されます。この事業により教育の不足部分を補い、改善していきたいと考えています。また、動物病

院が増改築され、新しい施設での診療が始まりました。より高度な動物診療を実施すると共に、教育研究に役立てていくこととなります。入試改革として、これまでの3年次編入が2年次編入に変更されます。これで標準カリキュラムに準拠した教育が可能になり、教育連携もやり易くなります。さらに比較がんとセンターが新設され、獣医学の教育研究に貢献できるようになりました。また今年度は継続を含めると半分以上の教員が科学研究費補助金を取得でき、岐阜大学獣医学課程の研究が飛躍するための基盤ができたと考えられます。

岐阜大学獣医学課程における当面の課題は、1. 学部教育の充実、2. 産業動物臨床教育体制の整備、3. 動物病院の充実と学部および卒業後教育への貢献、4. 大学教員後継者育成などです。獣医学教育の改善は、コアカリキュラム作成と参加型臨床実習実施や共用試験（仮免許試験）の検討など現実的な段階に進んできました。いっぽうで運営経費や人件費削減は相変わらず進んでいます。獣医学課程にご支援・ご鞭撻をお願いいたします。最後になりましたが、皆様のご健康とご活躍を祈念します。（北川 均）

◆連合農学研究科

卒業生の皆様には、ますますご健勝のこととお喜び申し上げます。本研究科は、平成3年の創設以来20年目となりました。そこで、9月10日にじゅうろくプラザで「連合農学研究科20年記念祝賀会」を開催いたしました。現役・OB含めて76名の参加を頂き、これからの連合農学研究科の一層の発展に向けて意見交換をいたしました。これまでのご支援に深く感謝いたします。平成21年度の学位授与者数は課程博士29名（外国人留学生17名）と論文博士2名（外国人0名）でした。その結果、この間

各務同窓会報

の学位授与者数は課程博士546名（外国人留学生285名）と論文博士132名（外国人18名）になりました。平成22年度から入学定員を20名に4名増員することができ、新たに教育課程を単位制に変更することができました。これにより博士課程の教育がより充実したものとなります。特に1昨年導入することができましたSINET3を利用した全国18大学からなる連合農学研究所の総合ゼミナールが充実し始め、さらに、修了し母国へ帰った留学生のブラッシュアップゼミナールや入学試験におけるテレビ会議面接に威力を発揮しはじめました。学生の国際学会への参加援助も軌道に乗り、毎年10名前後の学生が外国での経験を踏んでおります。また、静岡や岐阜でアグロサイエンスカフェと題して教員と学生の紹介も市民向けに始めております。キャリアパス事業も活発で、留学生や女性学生も対象に行うことができております。留学生が多いことが本連合農学研究所の特徴です。これを生かし、一層の国際化を進展するために第2期中期計画期間を運営するつもりです。今後とも、連合農学研究所の発展のためにご指導とご協力をよろしくお願いいたします。最後に、同窓生の皆様のご健康とご活躍をお祈りいたします。

（高見澤一裕）

◆大学院連合獣医学研究科

卒業生の皆さま方にはますますご健勝のこととお喜び申し上げます。平成2年4月に創設されました連合獣医学研究科は、平成22年3月末をもって満20年を経過し、今年の4月からは21年目を迎えております。この20年の間に4つの連携機関が加わると共に、入学者数も徐々に増加して現在では120名もの大学院生が在学しております。この20年間に課程博士314名と論文博士99名の合計413名の博士を社会に送り出してまいり

ました。このように多くの実績を残しながら、「東の連獣」として広く認知されるに至ったのも、多くの先輩諸氏のこれまでの努力の賜物と感謝申し上げます次第です。こうした成果を多くの方々と祝うべく、2月19日にグランベール岐山にて、4大学の学長先生にご出席いただき盛大に「創設20周年記念祝賀会」を開催させていただきました。これまでご支援いただきました多くの方々に厚くお礼申し上げます。

獣医学を取り巻く状況はめまぐるしく変化しており、国際化に向けた人材育成が強く求められております。研究科では20周年を一つの節目として、新たな課題に挑戦しております。今後ともご理解とご協力いただきますようお願い申し上げます。

（石黒直隆）

◆附属岐阜フィールド科学教育研究センター

各務同窓会員のみなさまにはますますご健勝のこととお喜び申し上げます。

附属岐阜フィールド科学教育研究センターは、大場、石田両専任教員、森本、細江、加藤、都竹各技術長の下、応用生物科学部学生対象のフィールド科学ならびに同実習、他学部対象のフィールド科学概論や教育学部対象の栽培学、あるいは学外の方への公開講座、各種見学対応など活発な活動を続けております。本年度からは岐阜市立岐阜特別支援校の生徒十五名が毎週農場において実習活動をしていました。公開講座としては「家庭菜園の基礎 理論と実際」「食と緑と命の学校」「冬山を歩こう」などを企画、開催中です。8月末には全国大学附属農場協議会が岐阜市内で開かれ、各地から百十四名の農場関係教職員が訪れました。

農場では3月末日に定年退職された技術職員横山さんに替わり、4月より本学大学

院修士修了生の古川さんが着任しました。また事務では島澤さんが退職し、学部管理係より福田さんが異動しました。障害者就労支援の一環として本年度は3名の方が技術職員とともに働いているほか、ボランティア受け入れ制度では2名の方に来ていただいています。

今後とも同窓のみなさまのご協力・ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

（宮川修一）

◆動物病院

各務同窓会の皆様には益々ご健勝のこととお慶び申し上げます。

中部地区で唯一の大学附属動物病院は、腫瘍症例を主とした紹介患者数が急増し、高度先進病院としての役割が年々増大しています。加えてより充実した臨床教育と研究の推進が社会から求められています。これらに対応するため21年度から施設の増改築に着手し、本年10月に従来の25倍の広さをもつ高度先進病院が誕生しました。詳しくはHPをご覧ください。

新病院を支えるスタッフは、獣医学課程の臨床教員14名に、新たに神志那弘明准教授と柴田早苗助教が加わり、病院雇用のスタッフとして伊藤祐典任期付き助教他、非常勤獣医師4名、動物看護師7名がおり、また事務職員4名がおります。この他学外から客員教授として太田亟慈先生（外科学）、柴田真治先生（循環器学）、准教授として中山一也先生（整形外科）、今井彩子先生（麻酔学）をお迎えし、より充実した臨床教育を実践しております。

このような事業を推進することができるとは、同窓の皆様のご理解とご支援の賜と深く感謝申し上げます。今後ともご指導の程、お願い申し上げます。

（鬼頭克也）

◆野生動物管理学研究センター（旧野生動物救護センター）

各務同窓会員の皆様におかれましては益々ご健勝のこととお慶び申し上げます。

平成21年4月に「野生動物救護センター」を改組する形でスタートした「野生動物管理学研究センター」も2年目を迎え、おかげさまで順調に業績を積み重ねております。

昨年度の成果として特筆すべき点はいくつかありますが、その第1は岐阜県による「特定鳥獣保護管理計画（イノシシ）」の策定に参画したこと。同計画には、県と本センターとの協働が明記され、野生動物の個体群管理をテーマとする地域連携がさらに強化されたことを内外に提示できました。また、乗鞍岳で多数の負傷者を出したツキノワグマによる人身事故への対応も重要な社会貢献になったと認識しております。当センターでは、事故発生直後から他の関係諸機関や研究者と連携しつつ原因究明活動を推進し、3月には「乗鞍岳で発生したツキノワグマによる人身事故の調査報告書」を発行することができました。もちろん従来からの傷病鳥獣救護活動も継続しており、平成21年度の収容数も130頭羽に達しました。

上記のように、本センターは岐阜県における野生動物管理の推進に、幅広い観点からの貢献を進めております。しかし、イノシシやシカ、サル等による農林業被害や市街地への出没など、解決すべき課題は山積しております。私共としましては、これら諸問題の解決に向け全力を挙げて努力を続ける所存でございますので、同窓の皆様には今後ともご指導、ご鞭撻を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

（鈴木正嗣）

新任教員のあいさつ

●●●●● 山根 京子

平成22年4月1日付けで応用生物科学部応用植物科学コースに助教として着任しました山根京子と申します。親戚一同西日本に在住し、私自身も関西を出たことがなく、一大決心をして関ヶ原をこえて参りました。着任後、たくさんの方の生き物たちとの出会いがあり、緑ゆたかで自然に恵まれた環境で教育・研究ができる喜びをかみしめております。

経歴としては、企業に勤めた後、京都大学農学研究科に入学し、栽培植物起源学研究室で再び学生となりました。田中正武先生の『栽培植物の起源』という本に感銘をうけ、人と植物のかかわりを遺伝学の側面から研究したいと思ったのがきっかけです。学位取得後もソバ、コムギ、ダイコン、ワサビなどを研究対象として、一貫して遺伝資源研究に従事して参りました。植物のもつ底深いパワーに日々驚かされながら、こうした力をいかに人が利用してきたのかをDNAレベルで紐解き、植物のもてる力を最大にいかした植物開発につなげたいと考えております。

岐阜大学では、植物遺伝育種学研究室を引き継がせて頂くこととなりました。当研究室は多くの優秀な人材を県内外に輩出してきた伝統があり、また当該分野も食糧生産を担う重要な位置付けにあることから、とくに教育面での責任の重さを痛感しております。植物開発に関する高度な知識・技術と、生物に対する深い洞察力の両面を併せ持つ人材の育成を目指して頑張りま

す。今後ともご指導ご鞭撻のほど、どうぞよろしくお願い申し上げます。

伊藤 祐典



平成22年4月1日
付けて附属動物病院、放射線治療システム・管理担当助教に着任いたしました

伊藤祐典です。このようなポストに就くことができたのも、私の変わった経歴によるものであると思います。私は以前、診療放射線技師として千葉大学医学部附属病院にて働いていました。その際に放射線取扱主任者第1種試験に合格。順風に思われた人生ですが、幼い時よりの夢であった獣医師をあきらめられず、一念発起して岐阜大学獣医学課程に編入し、獣医師となった変わりものであります。岐阜大学附属動物病院はこの4月より新病院が開院し、国立大学では全国初となる高エネルギー放射線治療器・リニアックが設置されました。リニアックの稼働にあたり、獣医師であり放射線取扱主任者1種の免許を有するものが必要となり、今回着任するに至りました。

リニアックは7月より稼働し、すでに多くの動物で治療を開始しています。放射線治療はその腫瘍によっては外科手術と同等の治療効果が得られます。小動物臨床においてもそのニーズの高まりは言うまでもありません。

今までの経験をもとに生かし、日本の中心に位置する岐阜大学が日本の放射線治療の中心となり、将来は世界的にも注目されるような施設になるように日々努力を重ねていきたいと思っております。どうぞよろしくお願い致します。

教員の異動

定年退職

H21. 3.31 応用生命科学講座環境分子科学教授
大橋 英雄

昇任

H22. 4. 1 獣医学講座臨床獣医学准教授
高須 正規
獣医学講座臨床獣医学助教から

H22. 8. 1 獣医学講座臨床獣医学教授

村瀬 哲磨
獣医学講座臨床獣医学准教授から

採用

H22. 4. 1 生物生産科学講座植物生産科学助教
山根 京子
大阪府立大学大学院
生命環境科学研究科助教から

H22. 4. 1 応用生物科学部附属動物病院助教
伊藤 祐典

退職後の近況

百日紅の花を眺めながら

大橋 英雄

皆様にはお変わりなくご活躍のこととお慶び申し上げます。皆様方にご挨拶する機会をいただきましたので、百日紅の紅い花を窓越しに眺めながら、この原稿を書いていきます。小生の岐阜大学入学以来、四十七年もの長い間、皆様方から多くのご指導、ご支援、ご鞭撻を賜りました。このことに對し、改めて衷心より感謝し、お礼申し上げる次第です。誠にありがとうございました。

退職時の桜から百日紅の花の咲く頃へと季節は瞬く間に巡り、五ヶ月が経とうとしていますが、小生はお陰様で、好きな植物を中心に据えた生活の下、元気に過ごしております。

炎天の地上花あり百日紅
これは高浜虚子がサルスベリの花を詠

んだ句で、小生も好きな句です。百日紅、すなわちサルスベリ（ミソハギ科）は春のサクラとは違って、真夏の暑さの中、長期間にわたって花を咲かせ続けま

す。結核と闘っていた虚子にとって、この花の逞しさは大層眩しかったに違いありません。小生は思いを馳せています。サルスベリは日本の夏を代表する花木で、昨今では多くの園芸品種を目にすることができます。背丈の高いもの、中庸のもの、矮性化したものなどです。また、花の色も紅の他に、白、桃、紫などあつて多彩な花木です。

退職したことによる余裕からでしょうか、上記のサルスベリの花など、周りの草花にも目がゆくようになり、あれこれと考えたり、調べたりしています。こうした暮らしは新しい発見があつて楽しい限りです。現役の時とは違った時間を過ごしています。

最後になりましたが、岐阜大学応用生物科学部並びに各務同窓会の一層のご発展と、教職員と会員各位の益々のご清栄とご健勝とを祈念申し上げて永年のお礼とご挨拶にさせていただきます。

退職記念事業 終了の報告

「大橋英雄教授退職記念」

事業報告

食品生命科学課程分子生命科学コースの大橋英雄教授は平成22年3月31日をもって定年退職されました。

記念事業としては、平成22年2月5日（金）101番教室にて「植物抽出成分を学んで40年」と題する最終講義が執り行われました。現教員学生はもとより、近隣に勤める卒業生が駆けつけてくれ、200人を超える盛大な最終講義となりました。講義では、40年間一貫して研究された、植物の二次代謝成分、特にフェノール性化合物の単離・構造

解析および生合成についてお話しされ、植物化学分類学や植物生理学の発展に大いに貢献されたことや、植物抽出成分化学を思考できる優秀な人材を育成し、社会に輩出されたことなどが同われる内容でした。講義終了後は会議室にて茶話会が催され、大橋先生を囲んで昔話に花が咲きました。

また5月1日（土）にはホテルグランベル岐山において退職記念祝賀会が開催され、先生の同級生から現4年生に至る120名を超える卒業生のご参加を頂き、懐かしい話が尽きることがないほどの盛大な会が執り行われました。

今後は、ご趣味である歴史の本を読みながら、ご自宅の庭いじりを楽しみたいとのこと。大橋先生のますますのご健勝とご多幸をお祈りし、退職記念事業報告とさせていただきます。

（光永 徹）

退職予定者のあいさつ

退職を迎えて

河合 啓一



昭和55年1月16日に農芸化学科応用微生物学講座の講師として着任、以来31年間岐阜大学にお世話になりました。

着任当時、各務原市的那加キャンパスにありました校舎では、自衛隊の

ジェット機の轟音でしばしば講義を中断せざる得ない状況でした。1982年9月に現在の黒野キャンパスに移転後は、快適な研究室や広い実験室、静穏な環境に加え、四季を楽しませてくれる木々の彩り、キャンパスを取り巻く山並み等素晴らしい環境で教育研究を行うことができました。その後、文部省（当時）の意向により全国的な大学改革が行われ、1988年の学科改組により、生物資源利用学科生物機能工学講座に遺伝子工学を担当することになりました。1991年には連合農学研究科が設置され、博士課程における教育も担当することになり、さらに、1995年には悲願でありまし

た遺伝子実験施設も設置され、研究環境も充実してきました。当時、私は施設のスタッフのお力添えを得て遺伝子関連研究が円滑に行われるよう施設の設計、導入機器の選定、施設の利用規則の制定等に明け暮れておりました。

農学部時代から応用生物科学部まで、卒業研究専攻生、修士課程修了生、さらに博士号取得者、計200余名を社会に送り出すことができました。この間、同窓各位の皆様、教職員の方々、一緒に学んだ学生諸君との出会いが、私の教育研究生活の大きな支えとなっておりまして。長い教員生活の間には、楽しかったことや悲しかったことなど様々な出来事に遇いましたが、幸い私自身は大病もせず過ごすことができました。長年に亘る皆様のご厚情とご指導、ご支援に衷心より感謝申し上げます。

末筆ながら、岐阜大学、応用生物科学部、並びに各務同窓会の一層のご発展と、同窓各位、教職員の皆様の益々ご健勝をお祈り申し上げ、退職の挨拶とさせていただきます。

退職にあたって

中塚 進一



岐阜大学に赴任したのは1990年のバブル絶頂期でした。旧農芸化学科から生物資源利用学科への改組で、故長谷川明教授と生物有機化学分野を担当することになりました。長谷川教授から「シアル酸のグリコシル化反応を改良するように」とのご要望でSフエニルシアル酸供与体を開発しました。残念ながらその後、

糖鎖合成を中断しましたが、岐阜大学のガンダリオシド合成の鍵反応を開発でき、世界の糖鎖合成の専門家に利用された事を誇りに思っています。

私のグループは当初はわずか数名のグループでしたが、次第に修士、博士課程への進学者が増えて、ついには20名を超えるメンバーになりました。99年には卒業生の柳瀬笑子さんを助手として迎え、皆で懸命に力添え、テアフラビン、イソフラボン、アントシアニン、ユズ、山椒、インドール類、ジケトビペラジン類、糖鎖合成などの研究に没頭してきました。時には頑張り過ぎた面もあったかと思いますが、私としては「やって楽しく、社会に役に立つ研究」を目指してきました。卒業生の皆さんにはこの経験がどこかで役立つものと思います。

当研究室のシリカゲル分級（粒揃え）、分離精製技術を利用して99年に現・長良サイエンス（株）を創業して国立大学教官初の代表取締役を兼業し、産学連携による大学の研究費確保と活性化、さらには地域社会の発展にも貢献しています。当該ベンチャーは今では社員数約10名のハイテクバイオ企業になりました。

何分にも晩生な体質なので、小さな芽が出た所で岐阜大学を退職になりましたが、今後は長良サイエンス（株）で研究生活と社会貢献を続けて楽しむ予定であることをご報告して私の退職の挨拶（研究の中間報告）とさせていただきます。

定年を迎えて

安部 淳



岐阜大学に着任して10年が過ぎ、来春3月末に定年を迎えることになりました。着任当時、国際農業学研究室には設備や文献・資料がなく、「ゼロからの出発」でした。在職中、多くの方々のご厚意に支えられ、教育・研究等に充実した日々を過ごすことができました。誠にありがとうございました。

この10年間で、学部生22名、修士課程15名、博士課程6名、研究生16名、外国人研究者等7名、計66名（うち留学生実数23名）が国際農業学研究室で学びました。苦楽をともにしてきた学生・院生の一人一人の顔と名前を鮮やかに思い出します。そのなかには、学長賞の榮譽に輝いた韓柱博士がいます。中国との交流が深まってきたことを反映し、多くの中国留学生在籍しました。食料・農業・農村問題には東アジア共通の課題が多くあり、日本の先進的研究から学び、自国の問題解決に貢献しようとして来日しています。

中国と言えば、残留農業問題です。研究室でも、野菜輸出企業農場の農業管理体制の構築を長年の定点観測によって解明してきました（鄭青）。零細農民の農業管理が深刻です。手つかずであった実態解明に、取り組んでいます（趙紅）。この問題の改善に日本の「減農薬運動」が多くの示唆を与えます。また、農民の市場対応に關して、アジア諸国では日本の農協共販研究に期待が寄せられています。パングラデシユの青果物流通分析（M・

M・ラーマン博士）の他に、中国物流学会賞を受賞した中国の「農民販売戸」の研究があります（万国偉博士）。帰国後も岐阜大学での研究を活かして活躍しています。

末筆になりましたが、岐阜大学、応用生物科学部、並びに各務同窓会の一層のご発展を祈念申し上げ、退職の挨拶とさせていただきます。

退職に際して

今井 健



退職に際して、在職中お世話になった皆様方にご挨拶申し上げます。

私は平成8年に農林水産省農業研究センターから岐阜大学農学部へ転勤し、その後15年間に渡って農業経済学研究室において教育と研究に従事して参りました。この間良い環境のもとで研究と教育に専心でき、皆様方の暖かいご支援に感謝申し上げます。

私の研究者としての在任期間は、農水省の研究期間20年と合わせて35年にもなりますが、激動の20世紀から成熟の21世紀への変わり目の在職で、教育と研究においてどれだけ時代の変革期に貢献できたか、退職に際し反省せずにはいられない心境です。

岐阜県は中山間地域と都市近郊地域が多く、農業生産と経営発展には様々な課題を抱えた地域であります。この岐阜県での農業の維持と発展が日本の食と農の発展につながると考え、研究して参りました。農業農村の現場から課題を得て研究することは、研究室の伝統的な研究方法として引き継ぎ、

岐阜県内の農業地域を学生とともに調査してきました。農業経営規模は小さいが農地を有効に利用し高品質の農産物を生産するために、努力されておられる多くの農家の方々にお会いして話を聞くことができ、研究や学生教育の面で大いに学ぶことができました。

この間学部から連合大学院まで多くの学生と接し、教育の難しさをあらためて感じさせられました。この大不況の中で就活に難儀している学生に対して、言葉で激励しかできない教師の力のなさを感じましたが、就職後短期間に転職しながらもたくましく生き抜こうとする卒業生の来訪には、逆に励まされてきました。またこの間多くの留学生的の研究指導に従事し、なかには母国中国に帰り教師になる者もあり、在学中の研究成果が活かされていることを知り、些細なことではありますが国際的にも貢献できたと、教師としての喜びを感じています。

私の在職した35年間は、農水省の研究機関だけでなく岐阜大学でも、組織再編の連続でした。最も印象に残ることは、6年前に農学部から応用生物科学部に組織替えを経験したこと。今後この組織再編が、時代の一時の流行や利害に流されず、農学の研究と教育の伝統を活かし将来を見据えて、あらたな研究発展の契機になることを期待しております。

最後になりましたが、岐阜大学、応用生物科学部ならびに各務同窓会の一層のご発展を祈念申し上げ、退職の挨拶とさせていただきます。

定年退職のご挨拶

芳村 了一



昭和20年5月生まれであり、戦後派といえないところに中途はんばな感じがしないでもありませんが、近く退職を迎えるにあたりご挨拶申し上げます。

昭和48年7月に岐阜大学農学部助手として着任以来、30余年の長きにわたりますが、この期間はまさに激動の期間だったという思いがします。日本国内はともかく、学内をみると、1988年の農学部6学科の4学科への改編にはじまり、2008年の農学研究科の応用生物科学研究所への改組と、周辺がめまぐるしく変貌した感じがします。

1996年の教養部の廃止にともなつて全学共通教育をそれぞれの学部が担当することになり、当初は生物学を担当しましたが、2002年より「建築と地球温暖化（人間の建築活動からみた地球温暖化問題）」を担当することになりました。着任当初は農学部林学科木材理学講座に所属し、木材をあつかう傍ら、木材を建築材料全体の中で位置づけたいという思いがありました。こうした念願がかなった思いがします。「建築統計年報」にあるように、「木材と鋼材とコンクリートが現在の主要な建築材料の3本柱」ということができますが、セメントや鋼材を製造するには1,500℃前後の高温を必要とするのに対し、木材は「高温技術とは縁の薄い材料」ということ、人類が火を使えさえできれば「たき火」ができるが、「たき火の温度はせいぜい900℃が限度」だということ

退職に想うこと

天谷 孝夫



百代の過客である月日は矢のごとく駆け去り、まだまだ先のことを高をくぐっていた退職の時を迎えることとなりました。2011年3月末には、丸々42年間にわたる教員生活を何とか無事終えることができました。お世話になった皆様に、厚くお礼申し上げます。

岐阜大学へは1991年12月に赴任し、生物生産システム学科生産環境整備学講座の農地工学研究室を担当することとなりました。新たな研究方向を模索するに当たり、現場で汗水を垂らしてデータを収集し、それを研究と教育の材料とする教員スタイルを取るものとしては、これまでの地域研究への偏重を見直し、フィールドを必ずしも地元に限ることなく、国の内外に広く

求めようと模索したのでした。

幸い海外研究では、前任地の岡山大学で開始した、モンゴルを中心とする乾燥地研究に関わる知見とネットワークを生かし、今に至るまで海外での調査研究を続けて来ることができました。このことは、岐阜大学での今に至る国際化希求の動向とうまくマッチするものとなり、これまで、中国（特に内モンゴル）を中心とする多くの留学生教育に携わる幸運に恵まれました。またこれにも増して、極めて優秀な日本人学生と共に、国の内外を問わず研究の苦勞を分かち合うことができたことは、何より私の大きな喜びであり誇りとするものとなりました。

次の七言絶句は、私の岐阜大学赴任を記念して、博士の学位取得のお世話をした台湾の蔡明華氏から恵贈された掛け軸中に、詠まれたものです。退職後もこのお気に入りの句を口ずさみつつ、新たな活動を模索していこうと考えております。

天雨水利富田畑
谷間寛地応耕農
孝子大舜古神話
天学伝任教授

最後に、応用生物科学部ならびに各務同窓会の一層のご発展と皆様のご健勝を祈念申し上げて、退職の挨拶とさせていただきます。

定年退職にあたって

小森 成一



同窓の皆様には、益々ご健勝にてお過ごしのこととお慶び申し上げます。
私は、来る3月を

もって定年退職することになりました。昭和62年8月助手に迎え入れていただいた、以来職員として23年間勤務、学生として休学期間を含め11年間、研究生として9年間を加えれば、実に43年間も母校にお世話になったこととなります。これもひとえに、皆様のご指導・ご支援のお陰であり、ここに心より感謝し御礼申し上げます。

振り返ってみると、幼い頃に母からよく聞かされた「あんたは父さんを助けるために生まれてきたんや」がもとで、すでに中学生のころに、大学にいくなら親元から通える岐阜大学と決まっていたこと、入学して1年を終えたあと、いよいよ本格的に父を助けねばならぬ事態となり、学業を一時中断し家業（鶏卵の卸販売・玉子巻など卵加工品の製造）に専念したこと、そのため当時4年制の獣医学科を卒業するのに9年（昭和41年4月～同50年3月）かかったこと、もう少し勉強したくて修士課程に進み、そこで学問・研究の面白さを覚えたこと、研究生時代は早朝3時から家業、午後から母校で研究という1日で1日以上を生きるような濃密な日々を送ったこと、またその間に大学教員への道に憧れるようになったことなど、懐かしく回想されます。

そして、恩師大橋秀法先生のお導きにより待望の大学人となったものの、売人からの方向転換のためか、しばらくは先生と呼ばれることに戸惑いを覚えたり、大学人とはどうあるべきか思慮する時期がありました。大学人については統一的な答えがあるわけではなく、思い巡らすうちにいつ頃からか、「学生に感動と満足を与える存在」が目指す教員像となっていま

した。思うに、そんな気持ちを抱いて歩んだ教員人生でしたが、学びて足らざるを、教えて至らざるを知るばかりで、学生諸君にどれほどの感動・満足を与えることができたのか、大きな疑問符がつきます。けれども、努力はしてきたつもりですので、そこには自分なりの充実・満足があり、教育・研究・学外活動で時間を共有していたいた卒業生・在校生の皆さんに感謝いたします。

なお、これまでずっと母校に支えられた幸運な人生を歩むことができた、その人生路の入り口を用意してくれた両親にも感謝したいと思います。

最後になりましたが、応用生物科学部ならびに各務同窓会の益々の発展と同窓の皆様のご健勝・ご隆昌を祈念しまして、退職の挨拶といたします。

長い間、本当にありがとうございました。

教員、及び旧教員の受賞

教員・旧教員

第8回中国物流学術年会二等賞

受賞者：安部 淳 応用生物科学部教授

受賞日：平成21年11月14日

第60回日本木材学会大会 優秀ポスター賞

受賞者：棚橋 光彦 応用生物科学部教授

受賞日：平成22年3月19日

瑞宝中綬章

名誉教授 五十崎恒

平成22年4月29日

退職記念事業のお知らせ

河合啓一教授の

定年退職にあたって

食品生命科学課程分子生命科学コースご担当の河合啓一教授は平成23年3月をもって定年退職されます。

先生は、北海道大学農学部卒業、同修士課程修了、同博士課程進学後、北海道大学農学部助手を経て、昭和55年1月に岐阜大学農学部講師として農芸化学科応用微生物学講座に赴任されました。その後助教を経て昭和63年に教授に昇任されました。さらに応用生物科学部への改組に伴い、食品生命科学課程の教授として教育研究に従事してこられました。

先生は微生物物を利用した未利用植物資源からの有用物質の生産や希土類元素集積微生物に関する研究など、微生物機能を応用して社会に還元する研究に精力的に取り組まれ、多くの業績を残されました。また多くの優秀な人材を社会に送り出されました。さらに、学内にあつては岐阜大学遺伝子実験施設長、生物資源利用学科長、食品生命科学課程長等、多くの要職につかれ、本学や本学部の発展に大きく貢献されました。また学外にあつては、日本生物工学会中部支部長、日本農芸化学会全国評議員など関連学会の発展にも寄与されました。

私事になりますが、小生も応用微生物学関連の講義や実験を通して河合先生に指導していただきました。始業の鐘がなる前に廊下で待機しておられ、鐘の音とともに入室、講義を始められました。また終業の鐘がなるまで講義

時間枠を一杯に使って教えていただいたのを印象的に覚えております。できる限りの教育をしたいという先生の熱意が伝わってまいりました。

本来であれば、このような先生のご功績に感謝して退職記念事業をさせていただきたいのですが、先生の固いご決意により執り行いませぬ。実際にご指導をいただいた一人としても誠に残念ですが、研究室OBならびに同窓の皆様にもどうかご理解いただければと存じます。

最後に、先生への感謝の気持ちを改めてお伝えするとともに退職後の先生のご健勝を祈念申し上げます。

(石田秀治)

中塚進一教授

退職記念事業のお知らせ

食品生命科学課程分子生命科学コースの中塚進一教授は平成23年3月31日をもって定年退職されます。

先生は、平成2年5月岐阜大学助教として名古屋大学より赴任されました。その後、平成9年に教授に昇任され、教育研究に従事しておられました。この間先生は、複素環天然物の合成、植物病原菌の感染、植物成分の構造及び合成等のご研究を精力的に手掛けられ、有機合成・天然物化学の発展に大いに貢献されたと共に、多くの優秀な人材を社会に輩出されました。

また、平成11年9月に岐阜大学発ベンチャー「ナカハラ科学」(現・長良サイエンス(株))を創業され、地域社会の発展にも貢献されております。

この度、最終講義を来年2月4日(金)午後3時より、応用生物科学部101教室において開催いたします。皆様とともに先生の最終講義を拝聴し、多

年にわたるご功績を讃えご指導に感謝の意を表したいと存じます。多数のご参加を賜りますようお願い申し上げます。

(柳瀬笑子)

安部 淳教授

退職記念事業のお知らせ

生産環境科学課程応用植物科学コースの安部淳教授は平成23年3月31日をもって定年退職されます。

先生は、平成12年に九州大学大学院農学府助教から岐阜大学農学部教授として転任されました。平成16年から学部改組により応用生物科学部教授として教育・研究に従事されております。この間、先生は一貫して、東アジア農業なかでも中国農業の構造変動、東アジア共通農業政策の構築に関わる研究を進められ、国際農業の素養をもつ学生を育成し、また多数の留学生を教育され、研究者も育成されました。

学内においては、国際交流委員会委員長、連環生物生産科学専攻長、応用植物科学コース長などの要職を勤められ、本学の発展に寄与されました。また学外にあつては、日本農業経済学会理事、食農資源経済学会理事などを歴任され学会活動にも貢献され、また日本農業市場学会からは学術賞を受賞されております。さらに日本科学者会議食糧問題部会幹事なども兼務され、食糧問題研究の発展にも尽力されました。

この度、先生のご退職を迎えるにあたり、最終講義を来年2月10日(木)午後2時より、応用生物科学部102室において開催いたします。また、講義のあと、午後3時10分より懇親会を開催する予定です。

皆様とともに、先生の最終講義を拝聴し、長年のご功績にご指導に感謝の意を表したいと存じます。多数の参加をお待ち申し上げます。

(荒井 聡)

今井 健教授

退職記念事業のお知らせ

生産環境科学課程応用植物科学コースの今井健教授は平成23年3月31日をもって定年退職されます。

先生は、平成8年に農林水産省農業研究センターから岐阜大学農学部助教として転任され、その後平成11年に教授に昇任されました。平成16年から学部改組により応用生物科学部教授として教育・研究に従事されております。この間、先生は一貫して、地場農産物流通システムの形成条件、中山間地域農業振興方策など、地域農業振興に関わる実証的な研究に中心的に従事され、食料生産管理の素養を身につけた多数の有為な人材を輩出し、また留学生教育にも力を注ぎ、研究者も育成してこられました。

学内においては、評議員、生物生産システム学科長、生産環境科学課程長などの要職につかれ、本学の発展に寄与されました。また学外にあつては、日本農業経済学会理事、中部農業経済学会代表理事長などを歴任され、学会大会を主宰されるなど学会活動にも貢献されております。さらに岐阜県農政審議会会長などの公職も兼務され、岐阜県農業の振興にも尽力されました。

この度、先生のご退職を迎えるにあたり、最終講義を来年2月10日(木)午後1時より、応用生物科学部102室において開催いたします。また、講義のあと、午後3時10分より懇親会を開催

する予定です。

皆様とともに、先生の最終講義を拝聴し、長年のご功績にご指導に感謝の意を表したいと存じます。多数の参加をお待ち申し上げます。

(荒井 聡)

芳村了一 先生

生産環境科学課程、環境生態科学コースご担当の芳村了一先生は、平成23年3月に定年退職されます。

芳村先生は、昭和48年6月北海道大学大学院農学研究科博士課程において所定の単位を取得された後、同年7月岐阜大学助手として当時の林学科木材理学研究室に赴任されました。その後、昭和61年4月に講師に昇進され、木材の組織構造や物理特性に関する教育と研究にまい進されてきました。さらに、近年は、建築材料としての木材の環境負荷の評価に関する教育・研究に取り組まれていました。とりわけ、全学共通教育では、多くの学生が興味を持つ建築材料と地球温暖化の関連などをテーマとした講義を大変熱心に担当されてきました。

芳村先生のご在職中に、岐阜大学農学部では2度の改組があり、林学科から森林緑地管掌講座へ、さらには環境生態科学コースへと所属する組織が大きく変わりましたが、この間木材産業をはじめ関連産業界で活躍する多くの優秀な人材を社会に送り出されました。また、学部の運営では大学院委員を長期にわたって担当するなど、大きな貢献をされてきました。芳村先生の長年にわたるご功績にご指導に心より感謝の意を表したいと思います。

なお、本来であれば芳村先生に対する感謝の念も含めて退官記念事業を盛

大に執り行うべきところですが、先生の強いご希望により最終講義は行いません。研究室のOB並びに同窓会の皆様にはなにとぞご理解くださいますようお願いいたします。

(向井 護)

天谷孝夫教授

退職記念事業のお知らせ

生産環境科学課程環境生態科学コースの天谷孝夫教授は平成23年3月31日をもって定年退職されます。

先生は、昭和44年に京都大学農学部農業工学科を卒業され、ただちに京都大学助手に採用されました。その後、昭和46年に岡山大学農学部農芸工学科に転任された後、平成3年に岐阜大学農学部生物生産システム学科教授として本学に赴任されました。平成16年には岐阜大学農学部応用生物科学部への改組に伴い、生産環境科学課程の教授として教育研究に従事して来られました。この間先生は、我が国の低平地や中山間地における農地や農村の諸問題や、海外では東アジアを対象に、特に中国内モンゴル自治区やモンゴル人民共和国における乾燥地の農牧業を中心に研究され、農地環境工学や乾燥地研究の発展に大いに尽力されるとともに、地域社会の発展に貢献できる優秀な人材や、数多くの留学生を育成して社会に輩出されました。

学内においては、教務厚生委員長、学科長などの要職につかれ、本学の発展に貢献されました。また学外にあっては、農業農村工学会理事・京都支部長、土壌物理学会評議員、日本砂丘学会評議員、日本モンゴル学会副会長などを歴任され、全国大会を開催されるなど学会活動への貢献、さらに黄砂問

題検討会委員、JICA中国乾燥地における生態環境の保全プログラム国内支援委員会委員長など、社会活動にも尽力されました。

この度、先生のご退職を迎えるにあたり、最終講義を2月1日(火)午後1時より、応用生物科学部101教室において開催いたします。また講義のあと、午後3時より、第1会議室において懇親会を開催する予定です。

皆様とともに、先生の最終講義を拝聴し、長年のご功績とご指導に感謝の意を表したいと存じます。多数のご参加をお待ち申し上げます。

(西村直正)

小森成一教授定年退職

記念事業のお知らせ

獣医学課程獣医薬理学教室の小森成一教授は平成23年3月31日をもって定年退職されます。

先生は、昭和52年に岐阜大学大学院農学研究科修士課程(獣医学専攻)を修了され、同年4月より家業である(株)東海畜産農園に勤務する傍ら、岐阜大学農学部研究生として研究を続けて参りました。その後、昭和62年8月に岐阜大学農学部家畜薬理学教室の助手として赴任され、平成2年11月に助教授、平成9年4月に教授に昇任されております。先生は、この間、消化管を始めとする内臓臓器に関する平滑筋の自律神経性調節に関する研究をされ、多くの優れた成果を挙げるとともに、有能な人材を多数社会に送り出されてきました。教室では、獣医学、薬理学に関する教育にとどまらず、人格形成、人間形成に重きを置いた教育もされてこられました。また、学内では、獣医学科長、応用生物科学部副学部長、

連合大学院獣医学研究科長、理事・副学長(学術研究・情報担当)など多くの要職を歴任され、学部、大学院および大学の発展に多大な貢献をされました。

この度、先生のご退職を迎えるにあたり、最終講義を来年2月4日(金)午後1時より、応用生物科学部101番教室にて開催いたします。講義の後には、茶話会を第1会議室にて開催する予定です。皆様とともに先生の講義を拝聴し、長年のご功績とご指導に感謝の意を表したいと存じます。皆様、万障お繰り合わせの上、ご参集いただけますようお願い申し上げます。また、2月11日(金)には、岐阜都ホテルにて開催されます日本獣医師会年次大会において、午後6時より記念講演会が予定されておりますので、こちらも多数の参加をお待ち申し上げます。

(海野年弘)

同窓会長賞受賞者

同窓会長賞は、毎年1回、優秀な学生の日頃の努力を顕彰する目的で平成19年度に設立されました。平成21年度も、各課程および専攻からの推薦を受けて、応用生物科学部および応用生物科学研究科の学生の中から、次の受賞者が決定されました。受賞者には心よりお祝い申し上げます。また、益々のご活躍を期待いたします。

受賞者(敬称略)

食品生命科学課程・佐藤 弘樹
生産環境科学課程・野々田詩織
獣医学課程・船橋めぐみ
資源生命科学専攻・永見圭太郎
生物環境科学専攻・新井 羊子

佐藤 弘樹

この度は各務同窓会長賞という素晴らしい賞をいただきありがとうございます。このような賞をいただくことができましたのも、先生方や友人、家族の大きな支えがあったからであると心から感謝しております。

岐阜大学の4年間を振り返ると、学問では自分の学びたいことを気が済むまで学び、サークル活動では多くの友人と切磋琢磨しあい、大変充実したものでありました。今後は、大学院で更に知識と経験を深め、社会に活かせるように努力していきたいと思っております。

野々田詩織

この度は、同窓会長賞をいただき、誠にありがとうございます。このような賞をいただけたのは、お世話になった先生方、友人、家族の支えがあったからだと思います。心から感謝しております。

私の大学生活は、勉学と部活動に励んだ毎日でした。苦しいこともありましたが、多くのことを学び、様々な考え方に会ったかけがえのない4年間となりました。

新しい環境にとまどう日々ですが、この4年間の経験をこれからの人生に活かし頑張っていきたいです。

船橋めぐみ

この度は、同窓会長賞をいただき大変嬉しく思います。お世話になった先生方、先輩方や後輩、友人、そして家族に心から感謝しています。

岐阜大学では授業や実習だけでなく、研究室での活動や催事など、様々なことを経験し学ぶことができました。臨床獣医師として働く今、新しいことに戸惑うことも多くあります。しかし、6年間で学んだことを糧に、どのような問題にも全力で取り組み解決できるよう精進したいと思っています。

永見圭太郎

この度は、同窓会長賞という素晴らしい賞をいただき、大変光栄に思っております。研究はまったく思うとおりにはいかないもので、幾度も頭を悩まされました。しかし、そこから困難を乗り越える喜びを知り、困難に挑戦する楽しさを学ぶことができました。そのような経験は決して私ひとりで得られたものではなく、熱心に指導してくださった先生方、お互いに刺激し合えた研究室の仲間、応援してくれた家族の支えのおかげだと思えます。今後も、研究室で学んだことを活かし、社会に貢献していきたいと思えます。

新井 羊子

この度は同窓会長賞をいただき、誠にありがとうございます。

大学院ではすばらしい先生方と仲間に出会え、日々多大な助けをいただきながら研究に取り組みました。研究は大変なこともありますが、農業生産の現場に必要とされる研究に関われたことは、本当に嬉しく、楽しいことでした。

大学院時代に得た知識や経験は、私にとって貴重な財産になっています。今後も様々なことから学び続け、農業のために自分ができることをしていきたいと思っています。

吉寄基金

大先輩からの贈りもの

海老原章郎

私は、C19吉寄清己研究支援金第3回対象者としてご支援を賜りました。研究課題は「タンパク質の構造機能復元法の確立」です。タンパク質とは、酵素に代表される生命現象に深く関わる生体物質です。数百個のアミノ酸が繋がってできた鎖が折りたたまれて独自の形と働き（構造と機能）を有しますが、いざ生合成すると簡単には実現できません。その構造と機能を試験管内で化学的に復元するのが本研究です。今回のご支援は、着任後間もない私にとりまして大変幸運でした。日々、タンパク質と格闘しておりますが、その先に広がる地平を目指して研究に取り組んでおります。

研究に先立ち、本研究支援金に対する吉寄様の文章を拝受いたしました。そこには、科学技術の必要性に対する切実な思い、若手教員に育ってほしいという強い思いがありました。戦争による級友との別れも私の心に響いてきました。ここに綴られたものを受け継ぐ必要を感じ、私は学生の前でその文章を読みました。研究期間中には、本研究と産業の関連性、およびバイオ燃料生産への酵

素利用についてのご質問を賜り、改めて、科学技術に対する吉寄様の深い思いを知る機会となりました。今回の幸運により私は、本学の大先輩から、実学の立場で境界領域に漕ぎ出すスピリットを託されたように思います。

最後となりましたが、ご支援いただきました吉寄清己様に心より感謝申し上げます。

C19吉寄清己研究支援寄付金の今年度受領者

吉寄清己氏（C19）のご厚志により設けられた本研究支援寄付金も第4回を数えることになりました。本年度の受領者は、中村浩平助教（微生物分子生態学）の「鉄酸化物利用型嫌気的メタン酸化微生物の探索——地球科学的機能と微生物燃料電池利用への可能性」に決定しました。なお、吉寄氏と奥様は今年も5月19日（水）に来学され、研究支援金を受領した教員と親しく懇談されました。この多大な研究支援に對しまして、心より感謝申し上げます。

（食品生命科学課程 山内 亮）



支部会員からの便り

各務同窓会
愛知県高等学校教員支部から

林 広志（A大26）

当支部は、愛知県内の農業高校に勤務する同窓の教員が集まって、昭和40年に結成されました。その後、普通高校に勤める同窓の教員も加わり、現在は、各務同窓会員で現在愛知県内の高等学校に勤務している者及び過去に勤務した者で組織されています。今年度の会員数は、OB79名、現職39名です。

OBは、悠々自適の毎日を過ごす方、農業自営を行う方、県内の大学や専門学校、高校で引き続き学生や生徒の指導に携わる方、緑化相談員などとして社会教育に貢献する方など、多方面にわたって元気に活躍されています。一方、現職は、農業高校で農業を担当する者を中心に、普通高校の理科教員や愛知県教育委員会の職員として、愛知県の農業教育・高校教育を支える力となるべく頑張っています。

支部の主な活動は、総会及び親睦会の開催、会員名簿の発行などです。総会は現職会員の多い農業高校が輪番で幹事を担当し、毎年6月下旬に開いています。今年は猿投農林高校が幹事で6月21日に豊田市内に於いて開催し、22名が参加しました。母校からは応用

生物科学部応用生物科学科食品生命科学課程の後藤清和教授がご臨席くださいました。

総会では、安城農林校長塚本昭彦支部長より挨拶並びに代表委員会報告があり、OBを代表して山本雅義先生の挨拶の後、後藤教授から母校の近況について説明がありました。議事では塚本校長を引き続いて支部長に選出、会計報告の後、次期当番校を確認しました。

総会後の懇親会では、会員それぞれ近況などを語り合い、しばし時を忘れて楽しく過ごしました。支部活動のさらなる活性化と今後の発展のために、優秀な生徒を育てて母校に入学させ、高校教員として愛知県に戻すことが欠かせません。互いに力を合わせて引き続き頑張ってくださいと盛り上がりました。最後は校歌と寮歌を声高らかに斉唱し、互いの健勝と活躍を誓い、再会を約して散会しました。

鉄男さん鉄子さんへ
耳よりな情報

各務同窓会宮城県支部

高田 幸夫（F大23）

まずは近況についてご報告申し上げます。現在の支部会員は8名であり、ついに一けたとなりました。

一時期は20名超を数えるほどになっておりましたが、会員の死亡、転勤、音信不通等により櫛の歯が抜けるように減少してまいりました。そのようなわけで、宮城支部単独での同窓会開催は困難となっており、10年ほど前から他県支部、他学部と合同で同窓会を開催しております。名称も「岐阜大学みちのく会」と命名し、去る6月26日12時より第12回目を仙台駅構内の飲食店で開催いたしました。全学部を対象を広げておりますが、参加者は11名といささか寂しいものがありました。内訳は、農学部出身者が4名、残り7名は工学部出身者となっております。なかでも土木工学科出身者が5名もあり、全国を股にかけて活躍する建設業従事者の方々は、地方にとっては得がたい同窓生となっております。今回新に参加していただいた方も、建設会社の東北支店長として赴任された方に参加していただきました。なかなか農学部出身の新規会員が増えないのが悩みの種です。

ところで話は突然変わりますが、今東北が熱いです。今年12月には東北新幹線の青森開業があり（現在は八戸まで）、2015年には北海道新幹線の函館開業を控えております。ついに新幹線が青函トンネルをくぐって北海道に上陸します。九州から北海道まで新幹線が繋がることになります。もちろん新幹線も魅力的ですが、東北の在来線も負けてはいません。その中でも特にお薦めしたい在来線は秋田、青森を走る五能線です。夕日の美しい日本海の波打ち際を通り、世界遺産の白神山地を抜けて走るルートは一見の価値有ります。沿線で宿泊されるなら、黄金崎の不老不死温泉をお薦めいたし

各務同窓会報

ます。波打ち際の露天風呂から日本海に沈む夕日を眺める光景がよく旅行雑誌等で取り上げられています。皆さんも一度は見たことがあるかもしれません。体力に自信のある方は白神山地のトレッキングに挑戦してみるのもお勧めです。同窓生の皆さん、志願して東北に住んでみませんか、働いてみませんか。その時は是非ご一報を。

各務同窓会
兵庫県支部だより

相埜 利幸 (E大31)

もともと神戸市役所と兵庫県庁の職員で構成されていた旧兵庫県支部が、阪神淡路大震災を機に衣がえし、皆で助け合おうと活動を始めてから早15年が過ぎました。当時は、各方面の方々からさまざまなご支援を頂きありがとうございました。現在、支部には約300名の会員が登録され、3年ごとに総会を開催し、杯を交わしながら親交を深めています。また、総会に向け、毎年、約20名による幹事会の開催や支部便りの発行を行っています。最近の悩みは新入会員の減少と総会出席者の減少です。昨年11月の第5回総会出席者の最年少がもう50半ばの私で、ここにも高齢化の波が押し寄せています。現在のセンター試験の前身である共通一次試験制度の導入時期から年を追うにつれ兵庫県からの進学者が減ってきているようで、そのため新規会員は近年皆無の状況にあります。今こそ若者よ、来たれ兵庫へ！

兵庫県は、松阪牛や近江牛の素牛とな

なっている但馬牛や全国一のズワイガニ(松葉ガニ)の水揚げを誇る但馬地域をはじめ、都市近郊野菜の作付けの盛んな摂津、酒米の代表品種の山田錦やトマト・ダイコン等の野菜作の盛んな播磨、お正月の定番の黒大豆や丹波大納言小豆、マツタケ、山の芋が特産の丹波、温暖な気候を生かしたたまねぎ、レタス、はくさい等の野菜を中心とした三毛作が盛んな淡路の五つの国からなり、食の宝庫でもあります。また、その地勢は日本海から瀬戸内海・太平洋へとつながり、多様な自然環境や風土から日本の縮図ともいわれています。一方、農業の六次産業化が謳われている昨今ですが、酒造りに適した米(山田錦)と六甲山からのミネラル水(宮水)、丹波の杜氏に支えられた灘五郷の日本酒、播磨地方の良質の小麦や清流揖保川の水、赤穂の塩を材料に日本一の生産量を誇るそうめん、その他スイーツ・洋菓子、明石焼き、イカナゴの釘煮等々、そして阪神タイガース：時代を先取りした活き活き兵庫県！次回、2年後の兵庫県支部総会が若返り盛大に開催されますことを祈念して、卒業生よ、来たれ兵庫県へ！

各務同窓会
富山県支部から

支部長 温井 喜彦 (A大8)

各務同窓会富山県支部の総会と懇親会を、七月三日(土)、富山市内で開き、二十一名が出席(会員数七十九名)した。うち、旧専門学校卒四名の皆さんが出席され、いずれも八十歳を超えてお

られるが、大変お元気で、総会に花を添えていただいた。

総会は、先ず、不幸にして亡くなられた方々のご冥福を祈って黙祷を捧げた。

次いで、支部長が挨拶し、その中で、一昨年六月、農学部創立八十五周年記念式典に参加したこと、翌日各務原キャンパス跡地見学ツアーに参加したこと、また、昨年六月、岐阜大学創立六十周年記念式典に参加したこと、旧学部毎の六つの同窓会の連合会を設立したことなどを報告した。

大学から、応用生物科学部生産環境科学科の松本康夫教授がお越しになられ、母校の近況報告をしていただいた。続いて懇親会に移り、互いに近況を語り合い、懐旧談に花を咲かせながら、時間の経つのも忘れ、楽しいひと時を過ごした。

A大5の永田晃康さんの漢詩朗吟(題 称名滝)があり、懇親会を盛り上げていただいた。

最後に、全員で、校歌「我等多望の春にして……」と凜真寮歌「白帝城の桜花……」を歌って盛況裡に閉会した。

昭和三十五年三月に卒業してちょうど五十年、旧稲葉郡那加町のキャンパスは一変し、昔の面影は全くなく、今は、各務原市民公園となり、市民の憩いの場となっている。

柳戸のキャンパスは立派になり、JR岐阜駅と駅前も新しく整備され、多感な青春時代を過ごした岐阜のまちも一変した。柳ヶ瀬、徹明町、駅前の織維間屋街は、シャッターを下ろした空き店舗が目立ち、往時のにぎわいもなく、一抹の寂しさもあるが、これも時代の流れであろうか。

計 報

昨年11月の会報90号の発行以後、平成22年9月までに御逝去が確認された方は、次のとおりです。謹んで哀悼の意を表し、御冥福をお祈り申し上げます。

家禽畜産学科		
P大3	興 津 昇	
P大17	吉 村 稔	
生物生産システム学科		
S大6	天 木 邦 彦	
生物資源利用学科		
R大4	服 部 淳	
実務科		
SP 4	斎 藤 一 郎	
SP17	狩 野 公	
SP16	宮 崎 修	
SP10	加 島 康 男	
SP21	加藤弘之(竹山)	
農業別科		
AT2	篠 本 芳 郎	
AT5	坂 本 善 衛	
AT10	小 川 昭 夫	
旧教員		
旧教員	石 川 達 芳	

V 2	島 倉 省 吾
V 2	高 柳 文 雄
V 4	今 村 一 貫
V 4	川 口 隆 男
V 4	北 川 静 夫
V 4	坂 井 裕 正
V 4	清 水 達 巳
V 5	津 邨 芳 郎
V 5	堀 江 義 昭
V 7	高 橋 治 郎
V大2	渡 邊 康 司
V大7	葉 山 杉 夫
V大11	今井田 眞 次
農業工業科	
E 1	荒木 恒(家木)
E 1	飯 沼 静 夫
E 2	藤 井 浩
E 4	山 田 良 衛
E大1	武 藤 和 郎
E大25	清水仁志(上沼)

F 10	皇 睦 夫
F 11	堀 正 之
F 13	鈴 木 重 彦
F 16	石 田 浩
F 16	西 尾 陽 吉
F 16	松 澤 義 男
F 17	林 外 明
F 18	秦 金太郎
F 18	山 田 勇
F 21	澤 田 寛 行
F 23	伊 藤 治 良
F大1	藤 井 慶 隆
F大9	山 口 美 孝
農芸化学科	
C 21	太 田 勇 夫
C 25	池ヶ谷 賢次郎
C大3	永 田 守 孝
農産製造科	
M 2	河 田 茂 男
獣医学科	
V 2	小坂節夫(安井)

農学科		
A 7	加 藤 休 一	
A 9	岸 上 健	
A10	小 林 正 司	
A12	山 崎 修 二	
A15	朝 倉 秋 男	
A15	大 沼 善 吉	
A16	橋 本 良 材	
A17	乗 京 正	
A20	大 島 健 之	
A22	宇 野 博 治	
A22	鈴 木 基 守	
A22	山 本 守 松	
A23	今 井 雷 蔵	
A23	吉田三郎(鳥居)	
A大8	有 田 郁 夫	
A大13	渡 辺 時 夫	
A大31	高 橋 渡	
林学科		
F 6	二之宮 良	

No.91

平成22年11月16日

各務同窓会報

支 部 リ ス ト

＊支部の廃止について＊

不明支部につきましては、代表委員会に報告するとともに、会報に掲載し、一年間連絡を待ちます。連絡がとれない場合は、次年度の代表委員会で廃止を議論することになります。

下記の支部は、昨年度の会報で不明支部として掲載し、その後連絡がありませんでした。誠に残念でしたが、今年度の代表委員会で廃止が承認されました。

「栃木支部」

下記の支部は、本年度の代表委員会において一年間の猶予をもって情報をお寄せいただくことになりました。会員の皆様からの情報をお待ちいたしております。

「愛知各務獣医同窓会」

事務局からのお知らせ

同窓会会員の皆様には日頃より温かいご支援・ご指導を賜り、誠にありがとうございます。今年は、例年よりも寒い春に続き、長雨の梅雨、そして記録的な猛暑の夏と、非常に厳しい季節の移り変わりがございました。皆様、お変わりありませんでしょうか。

一昨年度より発足いたしました応用生物科学部寄附金制度では、多数の同窓生からご協力をいただき、感謝申し上げます。皆様からのご支援は、本学部の教育支援活動に有効に活用させていただいております。今後、この制度を継続させていただきますので、引き続き寄付によるご支援のほどをよろしく願います。

下記の記入例を参考に、同封の申込用紙を同窓会事務局までご送付ください。後日、応用生物科学部より寄附金の振込用紙を送付させていただきます。

平成十六年度より年次会費の積算が二万円に達した皆様は、自動的に終身会員になる制度を実施しております。年次会員の皆様に送付させていただく会費振込用紙には、終身会員への切り替え差額が記されております。多額の皆様もいらっしゃるかと思存しますが、一括納入にご協力いただければ幸いです。

この会報では、多方面でのご活動中の同窓会員の皆様とそこでご活躍について紹介していきたいと考えております。各支部や会員の皆様からの情報のご提供はもちろんのこと、皆様からのご寄稿を心よりお待ち申し上げます。そのような場合には、ぜひ同窓会事務局まで一報いただければ幸いです。また、皆様のご活躍が新聞などで報道された場合には、事務局より原稿の執筆を依頼する場合がございます。ご協力のほど、何とぞよろしくお願いいたします。

最後ではございますが、会員各位のご健勝を祈念申し上げるとともに、今後の益々のご発展をお祈り申し上げます。

寄附金のお願いについて

一昨年から、始めました寄附金制度は趣意書にもありますように継続して行っていくしますので、本年度もご協力の程よろしくお願いいたします。

寄附金についての詳細は同封の「応用生物科学部へ寄附金拠出のお願い」及び「趣意書」をご覧ください。

下記の記入例をご参考に、同封の申込用紙を利用してお申込下さい。

なお、お申込みいただきましたら、応用生物科学部より振込用紙を送付いたしますので、ご入金いただきますようお願いいたします。

申込書の記入の仕方

* 申込書に必要事項をご記入ください。

* 申込書を下記の住所へお送りください。

〒501-1193 岐阜市柳戸1-1

岐阜大学応用生物科学部学務係気付
岐阜大学各務同窓会事務局

詳しくはこちらを確認してください。

【申込書】

別紙様式第1号

岐阜大学長 殿

住所氏名を記入し、
押印してください。

寄附者 干
住所
卒科
卒回(卒年) 第 回 (昭和 年 卒修)
氏名 印

(組織にあっては、組織名及び職・氏名をお願いします。)

金額を記入して
ください。

1 寄附金額 () 円

2 寄附の目的及び条件

目 的 岐阜大学における学術研究費

条件なし

3 寄附金の名称
岐阜大学理学寄附金

4 その他（主たる寄附金対象部局等）
 応用生物科学部共通
 （対応責任者：職名 応用生物科学部長 氏名 金丸 善敬）

第 91 号

平成22年11月16日
岐阜大学各務同窓会

〒501-1193 岐阜市柳戸 1-1

TEL (058) 293-3411

FAX (058) 293-2841

振替 00820-9-12742

<http://www1.gifu-u.ac.jp/~kagami01/>

e-mail ob-abs@gifu-u.ac.jp